

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

虎の門病院消化器外科（下部消化管）での国内外科研修を終えて

荻窪病院外科・消化器外科

浅田 祐介

この度、日本臨床外科学会の2023年度国内外科研修として、2023年10月16日～27日の約2週間、国家公務員共済組合連合会虎の門病院消化器外科（下部消化管）で研修をさせていただきましたのでご報告申し上げます。まず、このような機会をいただきました日本臨床外科学会の万代恭嗣会長、国内外科研修委員会の高山忠利委員長、東京都支部の瀬戸泰之支部長、虎の門病院の黒柳洋弥副院長・部長をはじめ関係者各位に厚く御礼申し上げます。

私は2010年に慶應義塾大学医学部を卒業し、初期臨床研修の後、直ちに母校の外科学教室一般・消化器外科（北川雄光教授）に入局致しました。関連病院での一般・消化器外科研修の後、2014年に大学に帰室後は腸班所属となり、長谷川博俊前班長（現東京歯科大学市川総合病院外科部長・主任教授）、岡林剛史現班長のご指導で大腸外科を学びました。本学のresidencyには様々なキャリアプランがありますが、多くの医局員が関連病院・大学での5年間の研修後は再度関連病院である地域の基幹病院へスタッフとして赴任し、その時点で基本的には独立した外科医扱いとなり、さらにキャリアを積むこととなります。私も2017年より複数の関連病院でスタッフとして勤務し、本年、大腸外科医にとってマイルストーンの一つである日本内視鏡外科学会技術認定医に2回目の挑戦で合格することができました。卒後8年目という比較的早い段階で独立したスタッフとして扱われるのは様々な苦勞はありますが、責任を負った上で診療に臨む中で得られる技能や喜びは大きく、本学のresidencyの特徴の一つであると思われまます。一方で、時に独りよがりな手術や治療方針となりかねないことや、医療安全上の観点から未経験の術式や高難度手術に取り組みにくいといったデメリットも挙げられます。私も卒後14年目と中堅となり、日常診療のみではレベルアップに若干の行き詰まりを感じており、今回の機会をいただきました。受け入れ先として様々な名門施設がありましたが、ご高名な黒柳部長が率いていらっしゃる、市中総合病院としての一方で大腸癌治療における本邦屈指のhigh volume centerであるという特徴が決め手となり、虎の門病院を希望致しました。

抜群の立地にある真新しい巨大な病院に圧倒され、緊張して初日を迎えましたが、黒柳部長、アテンドしていただいたフェローの宮崎遼先生をはじめご挨拶する先生方皆様が本当に温かく、大変有難く感じました。連日2～3例の大腸切除が行われており、多数の手術を見学させていただきました。黒柳部長自らの執刀による定型的なlap-LARを見学する機会に恵まれました。かの有名な「A層・B層」「白・黄色境界」「まな板切り」等について生解説いただき、感動致しました。全く憂いのない吻合でしたが、全周性に補強をされていました。「それでも漏れる時は漏れるが、魂を込めて縫っている。」とおっしゃっており、外科医として忘れてはいけない気持ちを感じました。また、黒柳部長はほぼ全ての手術で手術室に來られて適宜指導されており、その間にも私の疑問にも丁寧に応じてくださいました。手術指導も妥協を許さない一方で温かみを感じるものでした。的場周一郎部長にはロボット支援下TPEを見せていただきました。前立腺浸潤のためTPEが選択された初発の比較的定型的なTPEであり、合理的な手順は開腹・鏡視下を問わず今後に生かせるものでした。上野雅資特任部長には広範な膀胱・子宮浸潤を伴うbulkyなS状結腸癌に対する開腹手術を見せていただきました。併存症もあり、とすれば切除自体を日和ってしまいそうな患者でしたが、必要十分に手早く手術を完了されていました。上野先生も大変ご

高名ですが、拡大手術におけるトラブルシューティング等について丁寧に教えていただきました。花岡裕医長には今回の研修のアテンドをしていただくとともに、TNT後のlap側方郭清を見せていただきました。放射線治療後の線維化を認め、産婦人科手術歴もある困難症例でしたが、絶妙な電気メスのタッチでスムーズに剥離を進めていました。昨今の直腸癌治療のトレンドからは、今後側方郭清は術前治療後や再発してからのsalvage等の困難症例が増加すると思われ、大変勉強になりました。医員の福井雄大先生、平松康輔先生は私と同世代であり、両先生方の手術を拝見することは今回の研修で楽しみにしていたことの一つでした。研修中は主にフェローやレジデントの先生方の指導的助手をされていましたが、巧みに手術をコントロールされていました。フェローやレジデントの先生方に豊富な執刀チャンスがあることも、黒柳部長の教育方針に基づいた虎の門病院の特徴でした。卒後3～8年目という比較的若手の先生方でしたが、黒柳部長直伝のへら型電気メスのタッチや左手鉗子の重みを利用した柔らかな鈍的剥離は素晴らしかったです。また、high volume centerでresidencyを行いたいという高い志のみならず、立ち振る舞いも本当に感じの良い先生方ばかりであり、感服致しました。以上のように、2週間という限られた時間ではありましたが、大変充実した研修となりました。

最後になりましたが、大変多忙な中で本当に温かく受け入れていただきました虎の門病院の先生方に、改めまして心より御礼申し上げます。今回の貴重な経験を今後にかけていく決意を新たにしつつ、私の報告とさせていただきます。この度は誠に有難うございました。